

第1章 釧路市の概要

1 概要

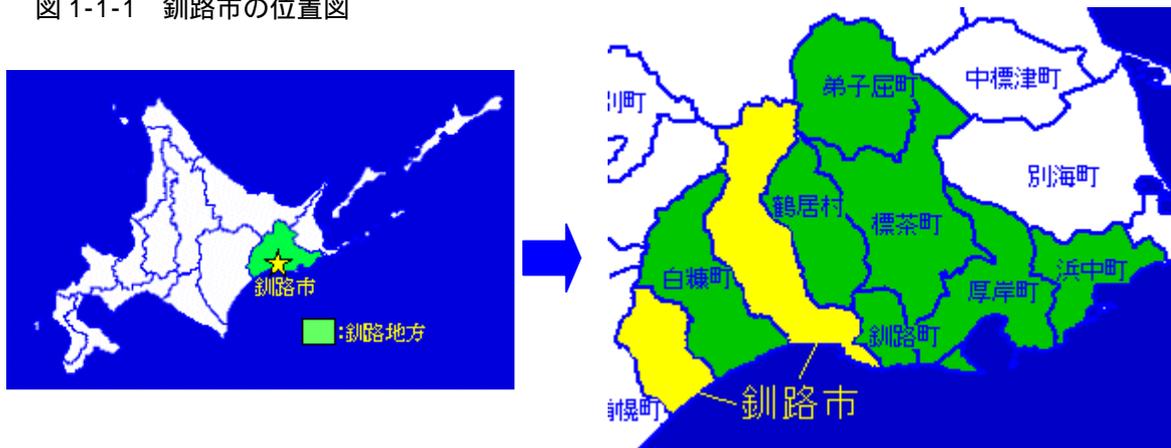
平成17年10月11日に旧釧路市、阿寒郡阿寒町、白糠郡音別町が合併し、新しい釧路市が誕生しました。

釧路市は、北海道の東部、東経144度22分24秒、北緯42度58分10秒に位置し、行政区域の総面積は1,362.75km²となっています（平成20年10月1日国土交通省国土地理院公表）。

阿寒、釧路湿原の2つの国立公園をはじめ、海、山、湿原、湖沼、河川など多彩で雄大な自然に恵まれています。

また、これらの恵まれた自然環境や港湾機能に支えられながら、農業、林業、水産業、鉱工業、観光業、商業など様々な産業が発展し、東北海道の中核拠点都市となっています。

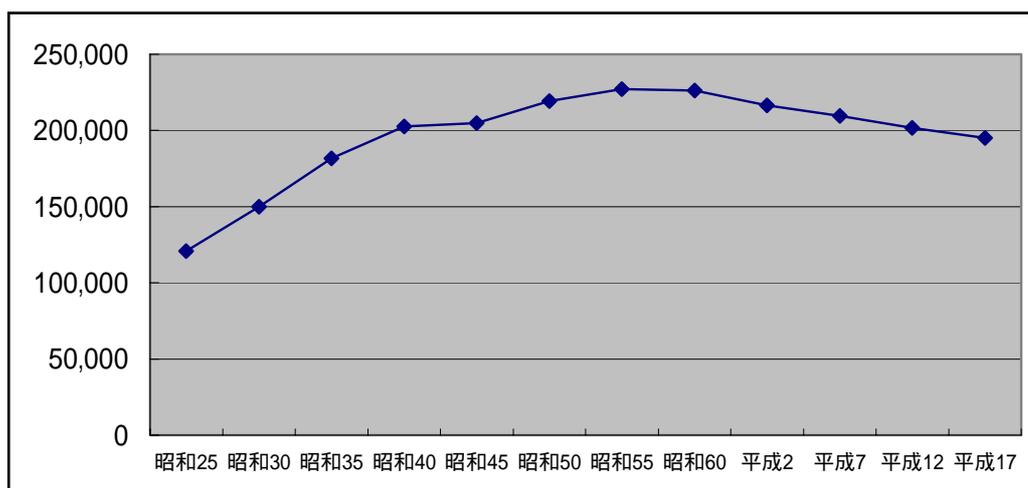
図 1-1-1 釧路市の位置図



2 人口

平成22年3月31日現在の住民基本台帳による釧路市の人口は、185,487人となっています。

図1-2-1 国勢調査による人口の推移 (各年10月1日現在)



人口は、合併前の旧釧路市、旧阿寒町、旧音別町の人口を合算したものの。

3 気象

本市の気候は、寒流の影響を受け、一般に冷涼です。冬期間の寒さは厳しい反面、積雪は概して多くありません。5月から8月にかけては、海霧が発生しやすく、日照時間が少ないため、夏季における気温は20 前後となります。9月から10月にかけては晴天が続き、11月以降の冬期間は快晴が多く、乾燥した日が続きます。

降水量は年間1,000mm前後で、降雪は11月下旬から4月上旬にかけて見られ、最深積雪は30cm程度で、道内他都市と比べて極めて少なくなっています。

また、内陸に位置する阿寒地域では、釧路地域と比べ、年間を通して寒暖の差が大きく、降雪量が多いことが特徴です。

表1-3-1 本市（釧路地域）の気温・降水量等

年月	気温()			降水量(mm)	最深積雪(cm)	日照時間(h)
	平均	最高	最低			
平成 17 年	6.5	28.3	-17.4	934.0	38	1,954.5
平成 18 年	6.7	28.6	-18.5	1,252.5	33	1,897.3
平成 19 年	6.7	30.0	-15.6	1,127.0	30	2,052.5
平成 20 年	6.7	29.2	-19.4	838.0	12	1,918.9
平成 21 年	6.8	25.7	-16.7	1,577.0	32	1,933.4
1 月	-2.1	4.6	-15.1	56.5	21	154.7
2 月	-4.0	5.6	-16.7	56.5	32	174.5
3 月	0.6	8.9	-13.1	96.0	26	166.2
4 月	4.1	19.0	-3.8	127.0	5	207.3
5 月	9.4	20.7	0.2	129.5	-	200.8
6 月	12.1	23.8	6.3	214.5	-	108.7
7 月	15.2	24.9	9.9	278.5	-	121.0
8 月	17.3	25.7	12.1	101.0	-	123.9
9 月	15.8	23.9	7.5	219.0	-	179.5
10 月	11.2	21.9	0.0	139.0	-	180.5
11 月	3.9	13.9	-7.4	53.0	1	138.7
12 月	-2.0	10.2	-12.6	106.5	29	177.6

釧路地方気象台による。

表1-3-2 本市（阿寒地域）の気温・降水量等

場所	気温()			降水量(mm)	最深積雪(cm)	日照時間(h)
	平均	最高	最低			
中徹別	5.8	30.9	-23.6	2,059.5	95	1,724.9
阿寒湖畔	4.6	29.4	-26.1	1,688.5	112	1,585.9

釧路地方気象台による。

平成 21 年の値。

4 土地利用状況

釧路市の土地の利用状況を都市計画法に基づく用途地域についてみると、住居系が3,157ha(59.9%)と大半を占めており、以下、商業系307ha(5.8%)、工業系1,812ha(34.3%)の合計5,276haが用途地域に指定されています。

表1-4-1 都市計画区域用途地域面積
(平成22年1月15日現在)

用途地域	面積(ha)
都市計画区域	22,175
市街化区域	5,276
第1種低層住居専用地域	974
第2種低層住居専用地域	7
第1種中高層住居専用地域	881
第2種中高層住居専用地域	604
第1種住居地域	492
第2種住居地域	72
準住居地域	127
近隣商業地域	199
商業地域	108
準工業地域	361
工業地域	759
工業専用地域	692
市街化調整区域	16,899

5 産業

第一次産業では、水産業が国際漁業規制の強化や主力水産資源の減少という現実直面し、かつて100万トンあった水揚げ量が、ここ数年は10～20万トンの間を推移しています。

林業については、素材生産量(販売用の伐採原木量)がここ数年5万m³前後で推移しています。

第二次産業では、石炭鉱業は(株)太平洋炭鉱の閉山後に、釧路コールマイン(株)が事業を引き継いでいますが、生産量は年間50～80万トンの間を推移しています。

製造業は、パルプ・紙・紙加工品製造業が中心であり、平成20年工業統計調査では、製造品出荷額等2,855億円のうち39.9%を占めています。

第三次産業では、小売業の年間販売額が平成19年商業統計調査で1,872億円となっています。

観光についてみると、観光客入り込み数は近年300～400万人前後で推移しており、平成21年度は約332万人となっています。

平成17年国勢調査の結果によると、就業者数は85,542人で、産業別構成は、第一次産業2.5%、第二次産業20.4%、第三次産業77%、分類不能の産業0.1%となっています。